

群馬県 グループホーム桐の家 地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしい生活の実現に向け、下記を理念として日々頑張っています。 ・のんびり ゆっくり その人らしく ・穏やかで安らぎのある暮らし ・自分でできる喜びと達成感のある暮らし ・自分らしさや誇りを保った暮らし		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は常日頃、職員に上記理念を実践に生かせるよう話をしており、正面口、壁に理念を大きく掲示し、管理者、職員共に理念を共有しています。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	法人全体で発行している季刊誌「春夏秋冬」にて施設の情報提供を行い、御家族、社会福祉協議会、市役所介護高齢課、運営推進協議会委員、地域の医療・福祉関係機関等に送付しています。施設内や入居者の生活を知っていただくために「地域交流会」を開催し、地域の方々と交流しました。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設が民家の多いところにあり、散歩途中や外気浴をしていると挨拶などの声掛けをしていただいています。雨が降ってくると干してある洗濯物の心配をして連絡を下さる方もいます。月、木のゴミ収集日には地域の皆様に会う機会があり、挨拶を交わしています。	○	今年初めて地域の方を対象にグループホームに来ていただき、「地域交流会」を開催しました。毎年行えるように努力していきたいと思っております。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	庭が広いので、育成会のお祭り時休憩場として提供したり、保育園児の散歩の途中の休憩場になり、交流する機会があります。地域のお祭り、小学校の運動会などの見学をして、交流できる努力をしています。近所の方が自宅の花の苗を持ってきてくれることもあります。	○	地域の自治会や老人会等に働きかけ、地域活動に参加したいと思っております。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホーム運営推進会議の中で認知症についての知識や対応等に関して役立つリーフレットを配布したり、認知症についての質疑応答を行い、グループホームとしてできることがないかと考えています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価で指摘のあった項目では、職員間で話し合い、改善しました。又、定期的に評価の定義を話し合い、運営者、管理者、職員ともにより良いサービス提供が行えるように努力しています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催しています。各委員さんから出された意見は、今後のサービス向上に活かすようにしています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	1ヶ月に1度定期的に市より委任された介護相談員が来訪して、入居者の方々と直接お話しいただいたり、市の介護高齢課の担当者とも随時連絡を取り、介護相談員の意見を聞くようにして、サービスの向上や個々の要望をかなえるように努力しています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	昨年から成年後見制度を利用された入居者がおり、制度の理解や利用の意義や難しさ等、職員は勉強させていただきました。今回のケースを基に必要な方への活用をスムーズに対応できるように努力していきたいと思っています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修を行い、虐待についての理解を深めるようにしております。管理者としても常日頃利用者や職員の日常生活を観察し、虐待と見なされる言動がないか注意を払っています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として開催する認知症や救命救急、消防消火訓練等に関する研修への参加を求めたり、毎年開催されるグループホーム大会への参加をしています。又、直接サービスを提供する職員に対しては、介護関係の資格を取得するよう促しをしています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にあるグループホームプランタンの家との合同レク、夏祭り参加、運動会等を実施することで、入居者や職員同士の交流を深めるようにしています。同じような立場の者同士で相談しあえることができるといことで、先日桐生消防署で行われた救急救命へも2施設職員と一緒に参加しました。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間の人間関係のトラブルや介護に対する疑問や質問には介護支援専門員が携われるようにしており、管理者や職員からの悩みや不安に適切にアドバイスができる体制を整えています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者や職員の都合を聞きながら、勤務表を作成し、個々に合わせた勤務が行えるようにしています。又、介護に関するリーフレットや書籍等を随時渡し、介護に対する不安感が取り除けるような知識を提供できるようにし、介護への自信が持てるような取り組みを行っております。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にご本人と面談したり、御家族よりご家庭での様子を伺ったり他施設でのご利用時の様子等、情報提供を頂き、ご本人の希望や困っていること等の把握に努め、入所後は本人とのコミュニケーションを多くとり、できるだけ早いうちに解消できるように努めています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所希望の相談時に御家族よりご利用予定者の現状や困っていること、御家族の困っていることやご希望等を把握してケアに生かせるように努力をしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人、家族の相談を受け止め、本人にとって一番ふさわしい状況を実現するために、施設相談員、在宅ケアマネージャー等との連携により、グループホーム以外のサービスの検討も行い、適切なサービスの提供に努めています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初めての方であれば、グループホームでのショートステイやデイサービス等を利用しながら、徐々に慣れていただければ一番良いと考えております。できるだけ直接見学をして、納得していただいた上で入居していただくようにしています。御家族や介護支援専門員との連携により、ご本人が安心していただけるよう心がけています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人の持っている力を最大限生かせるように、簡単な調理、居室の清掃、庭の手入れ、食堂のテーブル拭き等の日常生活に必要なことについて職員と共に行っていただいています。レクリエーションや行事等の中で昔からの歌や風習等、お年寄りから学ぶことも数々あります。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	体調不良の時や、必要な日用品、ご本人の特別なご要望があるときは御家族に連絡し、ご本人にとって一番いい方法を一緒に考えていくようにしています。又、納涼祭や花見、家族交流会等の行事があるときは、参加をお願いし、一緒に楽しい時を過ごせる機会を設けています	○	入居者の生活や他の入居者の御家族を知っていただくために、昨年家族交流会を開催しました。これからも定期的に開催し、家族間の交流に役立てていきたいと思っております。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御家族には、ご利用者様の状況を随時報告し、どんな場合でも誤解のない様コミュニケーションを図る努力をしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族にはグループホームに入居しても、これまで交流のあった親類知人にも気軽に会いに来ていただけるよう話をしています。又、手紙や電話をしていただくように御家族にお願いすることもあります。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の個性を大切に、気の合う人との交流を大切に、会話に入れない人には職員が声掛けて共通する話題を提供したりして孤立しないようにしております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された御家族が今もボランティアで定期的に来ていただいています。又、母体の老人保健施設へ移った方などには職員が面会に行くこともあります。桐の家から自宅へお帰りになった方が遊びに来てくれることもあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時にアセスメントを行い、ご本人の希望や家族の意向をふまえ、計画を立てるようにしています。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	診療情報提供書から病歴を、ご本人、御家族からサービス利用状況や生活歴、生活習慣等の情報提供を受け、ご本人に合った生活か続けられるようケアの実施に努めています。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入所者の毎日の生活状況をしっかり把握し、持っている能力を最大限生かせるように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	グループホーム介護計画の中で、ご本人や御家族の意向を聞き、又、職員間でどのようなケアがご本人にとって一番良いかを話し合い、御家族の確認を頂いています。		
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	約6ヶ月ごとに見直しを行い、心身状況がかなり変化した場合は、必要な関係者と相談し、見直しを行うようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のバイタルチェックをはじめ、一人一人の心身状況を把握し、個人用のカルテに記録しています。又、気づいた事やケアを変えた方が良い場合等、会議を開き、情報交換を行いケアの変更や見直しに活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期入所、通所介護、入所のサービスをご家庭の状況に合わせて、利用できるよう支援しています。現時点では通所介護のご利用者はおりません。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアとして絵手紙教室、ダンス教室の先生に訪問していただいております。又、母体の老人保健施設には太極拳、三味線と民謡等の慰問があるときは出かけて参加させていただいております。年2回の避難訓練を消防署に協力をいただき行っております。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの活用の支援はしたことがありませんが、必要な方がいらっしゃれば支援は行いたいと思っております。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	認知症という病気の関係上、権利擁護事業及び成年後見制度は必要と考えております。成年後見制度を利用された入所者の方がいらして、地域包括支援センターの方と協働して支援した経緯があります。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や御家族の希望に応じて外来受診やかかりつけ医の往診をお願いし、適切かつ円滑な医療処置が行える体制を整えております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その人の性格や人生経験等の情報を収集し、その人の尊厳やプライバシーに配慮して、人生の先輩として尊敬の念を持った言葉掛けや対応を心がけています。ホール内に個人情報に関する基本方針及びグループホームの倫理綱領を掲示しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人の希望することが何であるか、常に何をしたいか、どのようになりたいのか、声を掛け、できるだけ援助できるようにしています。買い物に行きたい方は買い物へ、散歩やドライブもできる限り行っています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の今までの過ごし方や生活に密着し、自分のペースで生活できるように、御家族と相談しながらグループホームでの生活を送っていただけるように援助しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人の趣味や意向にあったおしゃれができるように支援しています。理美容訪問サービスを利用し、ヘアカットや顔剃り、カラー、パーマ等選択できるようになっています。又、御家族がなじみのお店へ連れて行って下さったり、御家族がカットしに来て下さっている人もいます。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士の作成したカロリーや栄養バランスを計算したメニューを提供しています。食卓の準備から後片付けまでできることは利用者と職員が一緒に行っています。食べられない食品については代替品を提供しています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	御家族が面会に来た日だけお酒を飲んでいただいたり、御家族がお持ちになった飲食物を預かり、必要に応じて食べていただいています。おやつ等、好みを聞いてお出しすることもあります。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握した上で、トイレ誘導を行い、トイレで排泄するように支援しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご本人の心身の状況を把握した上で入浴を実施するようにしています。1ユニット週3回の入浴ですが他ユニットで別の日に入浴しておりますので、希望があれば入浴できます。入浴の時間はだいたい決まっておりますが、その中で希望を聞き行っています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転気味の方には日中起きていただけるように援助しています。食後は、昼休みができるようにテレビを見たり、ソファや自室でくつろいでいただいております。部屋は必要に応じて換気やエアコンの設定をまめに行い、睡眠に適した環境を整えるようにしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の性格、個人特技を把握し、その人らしく生活できるよう援助しています。絵手紙教室、折り紙、貼り絵、歌、読書等の趣味や掃除や食器片付け、洗濯物を干す、たたむ等の家事をお願いしたりして、生きる楽しみを見つけられるように援助しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を自分で管理できる方は、ご自分で管理してもらっています。ご自分で管理が困難な方は職員が預かり、買い物の際、本人にお金を渡し、ご自分で支払いができる様に支援しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気がいい日には施設の近所を職員が付き添い散歩したり、庭の花や野菜の手入れをしたり、玄関前で外気浴をしたりしています。又、関連施設である老人保健施設へ職員が出かけるときは、車で一緒に行くこともあります。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に1回程度はドライブを計画し、出かけるようにしています。又、御家族にも協力をいただき、お墓参りやご自宅に連れて行っていただくようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している		
(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	週に数回、訪問看護ステーションの看護師と医院の医師と看護師が診察に来ており、入所者の健康管理を行っております。職員が救急救命講習会等に参加したうえで、内部研修を行い、急変時の対応ができるようにしています。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	関連の老人保健施設には、昼夜スタッフが常駐しており、非常災害時には救助を求められる体制ができています。消防署職員の指導にて避難訓練、消火訓練を行っております。御家族や地域の方から防災協力員を募集して何かがあるときはお手伝いいただけるようにしています。		
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	グループホーム内ではできるだけご自由に暮らしていただくことが前提ですが、その際加齢、病気、認知症に伴うリスク(転倒、誤嚥等)については、入所時、介護計画説明時に御家族に説明し、ご理解を得るようにしています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	全入居者に毎日血圧、体温、脈拍、SPO2等のバイタルをチェックし、又、食事量、水分摂取量を温度板に記入し日々の体調把握に務め、体調が悪いときは、申し送りノートに記入することにより、情報を共有するようにしています。医師や看護師との連携により、体調不良の際の速やかな対応を心がけています。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての研修を職員が受け、薬に対する知識をより深め、必ず服用できるように努めております。バイタルチェック等で体調が悪くなった場合は、施設内看護師や医師や看護師の指示を仰ぐようにして、病気の早期発見に努めています。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の状況把握に努め、記録しております。便秘気味の場合や予防として、水分補給や適度な運動を行ったり、牛乳の摂取やお腹のマッサージ、薬の調節等で排便が促されるように工夫しています。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアができるように促しを行っております。できる方はご自分でしていただき、できない方はケアを行い、入れ歯の方は、夜間は職員が管理させていただいています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベット、タンス、エアコンが設置されています。そのほか布団や身のまわりの品は今まで使用されたなじみの品をお持ちいただくようお願いしております。作成した工作物や、写真も飾っていただいています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の清掃の時は窓を開け、換気をまめに行っております。空調は各居室にエアコンが設置されており、体調や天候に合わせて、まめにコントロールしています。各居室には炭を置き、気持ちよく過ごせるように環境を整備しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	外から玄関、ホール、廊下、居室、エレベータ、トイレ等すべてバリアフリーとなっています。車椅子でも自由に移動できます。トイレ、浴室、廊下には手すりを設置して残存機能を活かし、自立した生活ができるようにしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者一人一人の特徴や、性格を尊重し、清掃や食事の準備、片付けや洗濯物を干すことやたたむ事等、できることを職員と一緒にしています。排泄等の失敗が防げるように早めのトイレ誘導等を心がけております。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭や玄関の花壇には、入居者が植えた花や野菜などがあり、水やりや手入れを行っています。玄関前では椅子を持ち出し、外気浴やお話や歌のレクリエーションを楽しむことも行っています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームを大きな一つの家族と考えながら、一人一人歩んできた経歴の違い、個性や身体状況を把握し、その人にあったケアの実践が行えるように、又、楽しく暮らしていけるように努力しています。昔取ったきねづかのように、畑仕事や花の手入れや水やりを楽しんだり、料理作りや片付け、掃除を頑張っています。職員とは親子や孫のように話をしたり、歌を唄ったり、昔の遊びをしたり、折り紙や絵を描いたりして1日を過ごしています。散歩をしていると近所の方が声を掛けてくれ、ある時は自宅の庭になったミカンを採らせてくれたりもしました。2ユニットの特性を活かし、合同でレクリエーションや運動会や誕生会をしたり、弁当を作ってお花見、町主催のお祭りの見学や季節ごとにドライブに行ったりと楽しんでおります。ボランティアでダンスや絵手紙の先生が来てくれ、リハビリを兼ねた教室も実施しています。身体状況が変化したときは、希望により老人保健施設への移動もスムーズに行えるように連携体制を整えております。